

2020 年 6 月 25 日

No. MME0105

世界の海運業界における脱炭素化を促進 マースクゼロカーボン SHIPPING 研究所の設立に参画

- ◆ 国際総合海運大手 A.P.モラー・マースクの創業者一族が運営する財団の提唱により設立される共同研究機関
- ◆ 海事産業の脱炭素化達成を目指し、サプライチェーン全体での道筋策定と技術開発へ

三菱重工グループでは 6 月 25 日付けプレスリリースで発表しております通り、国際総合海運大手である A.P.モラー・マースク (A.P. Møller - Mærsk A/S) グループの提唱により新たに設立される海運業界の脱炭素化を促進するための研究機関「マースクゼロカーボン SHIPPING 研究所 (The Mærsk Mc-Kinney Møller Center for Zero Carbon Shipping)」の活動に参画します。

この活動において三菱重工マリンマシナリでは、船舶に搭載される舶用機械・システム分野での技術革新を図る役割を三菱重工グループ内で担い温暖化ガス削減に取り組み、海事産業の発展に寄与して参ります。

以上

添付：2020 年 6 月 25 日付け三菱重工プレスリリース

担 当 窓 口：三菱重工マリンマシナリ株式会社

PRESS RELEASE

2020 年 6 月 25 日

世界の海運業界における脱炭素化を促進 マースクゼロカーボン SHIPPING 研究所の設立に参画

- ◆ 国際総合海運大手 A.P.モラー・マースクの創業者一族が運営する財団の提唱により設立される共同研究機関
- ◆ 海事産業の脱炭素化達成を目指し、サプライチェーン全体での道筋策定と技術開発へ

三菱重工業は、国際総合海運大手である A.P.モラー・マースク (A.P. Møller - Mærsk A/S) グループの提唱により新たに設立される海運業界の脱炭素化を促進するための研究機関「マースクゼロカーボン SHIPPING 研究所 (The Mærsk Mc-Kinney Møller Center for Zero Carbon Shipping)」の設立パートナーとして参画します。同研究機関は、デンマークの首都コペンハーゲンに本拠をかまえ、当社をはじめ 7 企業・機関の参画により、現在世界における炭素排出量の約 3% を占める海運業界の脱炭素化を新燃料および新技術の開発を中心に進めることを目標とします。三菱重工グループは人材派遣などを含め協力していきます。

設立パートナーは提唱者の A.P.モラー・マースクおよび当社のほか、米国船級協会 ABS (American Bureau of Shipping)、米国穀物総合大手のカーギル (Cargill, Incorporated)、大型ディーゼルエンジンの老舗 MAN グループ (MAN Energy Solutions)、日本郵船株式会社、ならびにシーメンス (Siemens Energy) です。同センターは、A.P.モラー・マースク創業者である Mærsk Mc-Kinney Møller を記念した慈善財団である A.P.モラー財団の拠出基金により非営利組織 (NPO) として運営されます。初代 CEO には A.P. モラー・マースクの元技術担当副社長である Bo Cerup-Simonsen が就任する予定です。産業界、学界、関係当局などとも協力して、業界を横断して組成されるパートナーがグローバルに連携して、脱炭素化燃料や新たな推進技術の研究開発を進めます。

設立初期の段階では設立パートナーからの派遣者と同センターの独自採用者を含め合計 100 人規模の職員での運営を予定。これら職員は、エネルギー、燃料、船舶技術の専門家だけでなく、規制問題、マーケティングなどについても担当します。同センターは、海運業界が掲げる、2050 年に向けた地球温暖化ガス大幅削減の目標達成に向け、活動していきます。

三菱重工グループは、今回の研究センターへの参画も一つの契機に、さらなる地球規模での温暖化ガス削減に向けた取り組みを強化し、船舶エンジニアリングならびに船上に搭載する船用機械・システムを通じて海上物流のさらなる発展と世界的課題である幅広い環境負荷の低減に貢献していきます。

以 上

担 当 窓 口 : エナジードメイン / プラントインフラドメイン